

有機農業の取組拡大に向けた 各地の取組事例集

ビジネス実践拠点づくり編

令和2年度有機農産物安定供給体制構築事業(有機農業推進総合対策)のうち
オーガニックビジネス実践拠点づくり事業



令和3年12月
農産局農業環境対策課

農林水産省

日本の有機農業の取組拡大に向けて

- 我が国の有機食品市場は拡大しており、有機農業の取組面積も拡大しています。
- 農林水産省では、2030年に有機農業の取組面積を6.3万ha、有機食品を週1回利用する者の割合を25%にすること等を目標とし、更に2050年には、国際的に行われている有機農業の取組を全耕地面積の25%（100万ha）とすることを目指し、有機農業に係る人材育成、産地づくり、販売機会の多様化、消費者の理解の増進、技術開発・調査等を推進しています。

日本の有機農業の取組面積

推計年度	2009年	2018年
日本全国の有機農業の取組面積推計値(ha)	16.3千ha	23.7千ha

約4割拡大

※ 有機JAS認証を取得せずに有機農業に取り組んでいる農地面積を含む。

日本の有機食品市場規模

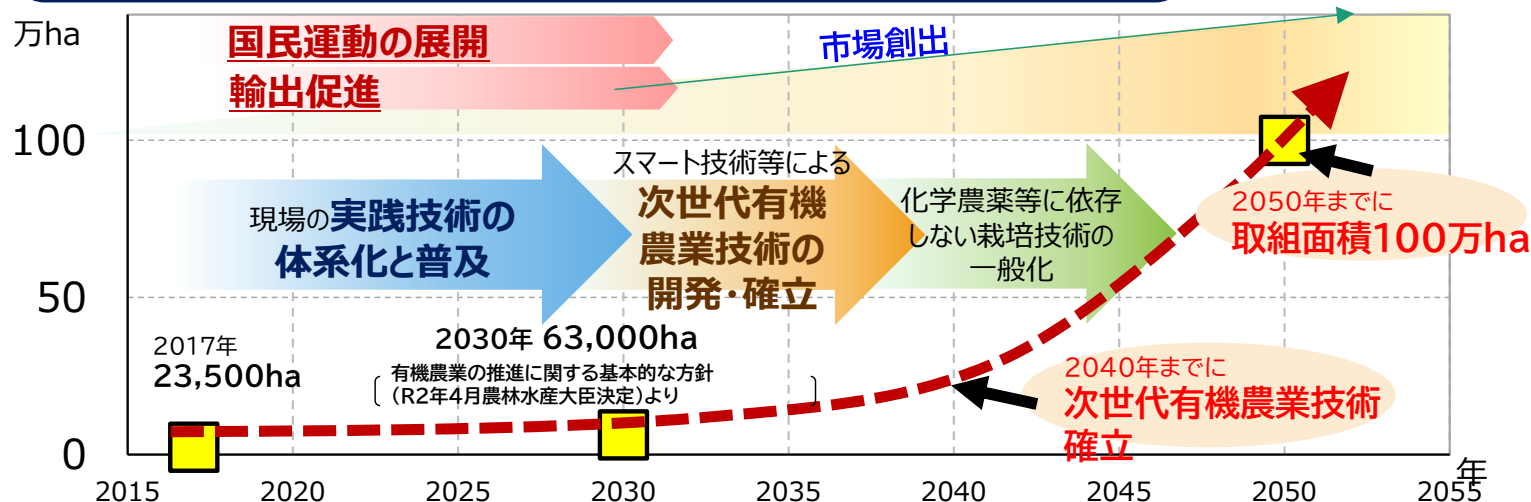
推計年度	2009年	2017年
日本全国の有機食品市場規模推計値(円)	1,300億円	1,850億円

約4割拡大

※ 消費者アンケートによる推計

有機農業の取組拡大の方向

有機農業の取組拡大（みどりの食料システム戦略（令和3年5月）より）



● 2030年の生産および消費の目標

有機農業の取組面積	23.5千ha(2017)	→	63千ha(2030)
有機農業者数	11.8千人(2009)	→	36千人(2030)
有機食品の国産シェア	60%(2017)	→	84%(2030)
有機食品を週1回以上利用する者の割合	17.5%(2017)	→	25%(2030)

推進に関する施策

➤ 人材育成：

- 就農相談、共同利用施設整備、指導員の育成・現地指導等

➤ 販売機会の多様化：

- 物流の合理化、加工需要の拡大、有機認証取得時の負担軽減等

➤ 技術開発・調査：

- 雑草対策、育種等、地域に適した技術体系の確立、各種調査の実施とわかりやすい情報発信等

➤ 産地づくり：

- 拠点の育成、地方公共団体のネットワーク構築等

➤ 消費者の理解の増進：

- 食育等との連携、小売事業者等と連携した国産需要喚起等

有機農業の面的拡大と有機農業により生産された農産物の安定的な供給体制を構築するため、有機農業者のネットワーク構築や実需者との意見交換等のオーガニックビジネスの実践拠点づくり、販売戦略の企画・提案、自治体間のネットワーク構築等を支援する事業

1. オーガニックビジネス実践拠点づくり事業

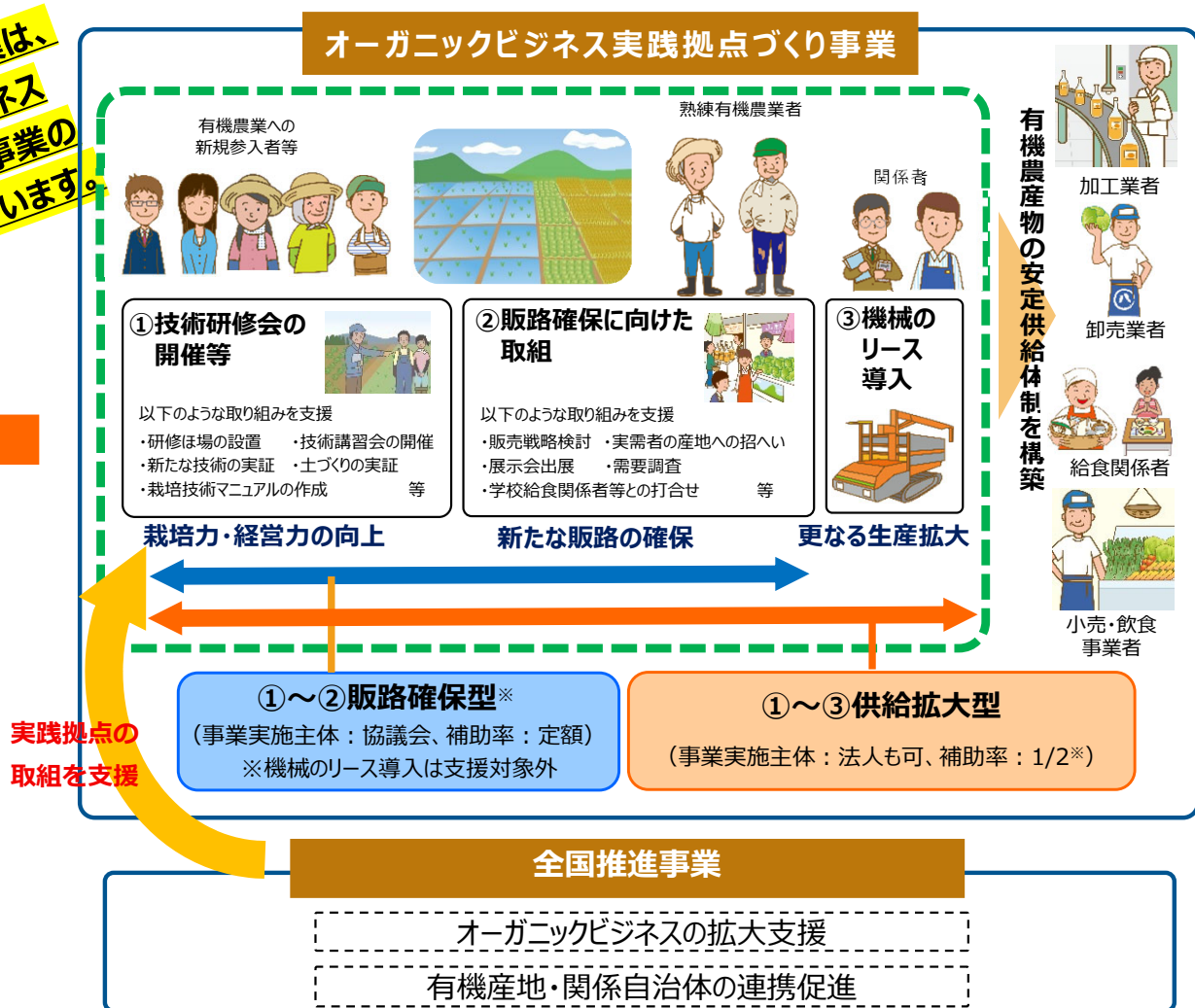
補助率：定額、1/2
事業実施主体：協議会等

- ① 有機農業者のネットワーク構築、関連事業者や実需者との意見交換、有機農業者の技術・経営力向上研修会の開催、新規参入者向け研修場の設置の取組等を支援。
- ② 有機農業への新規参入者等に対し、熟練有機農業者が行う現地指導の取組を支援。

※この取組事例集は、
オーガニックビジネス
実践拠点づくり事業の
取組を紹介しています。



全国に実践拠点を
つくり有機の
生産力・供給力
をアップ！



2. 全国推進事業

補助率：定額
事業実施主体：民間団体等

- ① オーガニックビジネスの拡大支援のため、販売戦略を企画・提案するオーガニック・プロデューサーの選定・派遣、オーガニック・プロデューサーによる実需との商談等を支援。
- ② 有機産地・関係自治体の連携を促すため、実践拠点に共通する課題等への対応、研修受け入れ農業者に対する研修会の実施、学校給食への活用などの取組を共有する自治体間のネットワーク構築等を支援。

令和2年度オーガニックビジネス実践拠点づくり事業 実施地区一覧

【販路確保型】

- 1 かわにし有機農業推進協議会
- 2 もがみオーガニックビレッジ協議会
- 3 南陽市有機農業推進協議会
- 4 千葉県有機農業推進協議会
- 5 さがみサステナブルコミュニティ
- 6 小田原有機の里づくり協議会
- 7 とやま有機・エコ農業パワーアップ協議会
- 8 若狭小浜オーガニック推進協議会
- 9 知多の恵み
- 10 神戸有機農業者CSA推進協議会
- 11 神戸オーガニック・エコ農業推進協議会
- 12 丹波市有機の里づくり推進協議会
- 13 那賀地方有機農業推進協議会
- 14 大阪オーガニック・エコ農業推進協議会
- 15 茨木オーガニック農業推進協議会
- 16 小松島市生物多様性農業推進協議会
- 17 さぬきオーガニック
- 18 高知オーガニック
- 19 くまもと有機農業推進協議会
- 20 宮崎県有機農業連絡協議会
- 21 かごしま有機農業推進協議会

【供給拡大型】

- 1 自然と共生する里づくり連絡協議会
- 2 株式会社いかす
- 3 名古屋オーガニックアクション協議会
- 4 生活協同組合コープ自然派奈良
- 5 京都オーガニックアクション協議会
- 6 有限会社かごしま有機生産組合



1 かわにし有機農業推進協議会（山形県川西町）

協議会の構成員

やまがた有機農業の匠、山形県有機うまいもん研究会、(有)山形川西産直センター、(有)ファーマーズクラブ赤とんぼ、(農)山形おきたま産直センター、たまちゃんクラブ、ときめきセミナー、川西町認定女性農業者、かわにし森のマルシェ、県立置賜農業高等学校、川西町、町内の有機農業者（個人会員）

生産概要（令和2年度末）

- 有機農業（うち有機JAS）取組面積：23.7ha（19.5ha）
- 有機農業取組者数：15名
- 栽培品目：水稻、豆類、野菜、雑穀等
- 構成員の主な取引先：町内産直施設、契約販売、ネット直販等

成果（令和元年度→令和5年度見込）

- ・有機農業者数の増加：10名（令和元年実績）→12名（令和5年度見込）
- ・有機JAS認証取得者数の増加：7名（令和元年実績）→9名（令和5年度見込）

取組のポイント（令和2年度）

■土づくりや雑草管理に関する技術講習会の開催

・新規参入者増加のため、有機農業に関心のある農業者（町内外）等を対象に、有機栽培に関する技術講習会を計7回（水稻3回、野菜4回）開催した。有機栽培における適切な肥培管理や雑草管理、品質や食味等への影響について理解を深めることで、新規参入者だけでなく、従来からの有機農業実践者の生産性の向上につなげた。

■有機JAS認証取得に関する講習会の開催

・有機農業JAS認証取得者数増加のため、県内の熟練有機農業者を講師に招き、有機JAS認証取得のメリットや注意点等を把握することで、有機農業の促進と理解醸成につなげた。

■産直施設やスーパー等を活用した販路開拓

・有機農産物の付加価値を向上させるため、かわにし森のマルシェ（町内産直施設）と連携し、有機農業者コーナーを常設することで、有機農業者の「顔」が見える販売戦略を構築できた。また、同施設や県内スーパーのイベント等に参加し、有機農産物の消費者の有機農産物に対する理解促進を図った。



イベント参加時の様子



有機農業者コーナーに設置したパネル



今後の農業を担う子供たちに食育を行うため、現在、町内の学校に有機米を提供する準備を進めています。有機農業に興味のある方は、ぜひ事務局までご連絡ください！

問い合わせ先
かわにし有機農業推進協議会
事務局：0238-42-6641

〔東北農政局生産部生産技術環境課
022-221-6214〕

2 もがみオーガニックビレッジ協議会（山形県新庄市）

協議会の構成員

山形有機農業の匠、ネットワーク農縁等有機農業者 4 名、実需者 1 名、新庄市農林課 1 名

生産概要（令和 2 年度末）

- | | |
|--------------------|-------------------------|
| ■取組面積 | ■有機農業者数：15名 |
| 有機農業取組面積：13.7ha | ■栽培品目：米、大豆、野菜等 |
| うち有機JAS取得面積：11.2ha | ■構成員の主な取引先：オイシックス・ラ・大地等 |

成果（令和 2 年度）

- ・有機JAS認証取得者数の増加： 1 名（令和元年度 1 人 ▷ 令和 2 年度 2 人）
- ・有機農業取組面積の拡大： 1.5ha（令和元年度 12.2ha ▷ 令和 2 年度 13.7ha）

取組のポイント（令和 2 年度）

■有機栽培講習会の実施

- ・有機栽培志向者等、新たに有機栽培を始めたい農業者を主たる対象として栽培技術を学ぶ機会を創出。講習内容は、有機農業者側から見ても深い学びがあり、慣行農業者にとっても有機への転換に関心を持たせる有意義な内容であった。

■米糖ペレット散布による抑草効果の実証

- ・研修圃場を 3 件設置し、米糖の使用方法を変え、雑草の発生状況や収穫量の状況を検証。ペレットのみに頼るのは難しいとの結論に至った。抑草方法の複合化のほか、水深の影響も考えられることから、今後そのデータ収集等が必要。

■やまがたビエンナーレ主催『オーガニックマーケット』への出展

- ・オーガニックにこだわる「食品館256」が会場であり、食材への意識が高い客層であった。対面販売を通して、日常にオーガニックを取り入れている人は少ないと感じたが、顧客のニーズをつかむ良い機会となった。

■もがみオーガニックフォーラム2020の開催

- ・映画上映、講演会、意見交換会を行うイベントを実施。有機農業を始めた家族の数年間を描いた映画で、有機農業に取り組み楽しさややり甲斐を再認識することができた。また、講演も即実践に繋がられるような内容で、生産力を向上するための課題を確認することができた。



私たちは、人と自然が調和した持続可能なオーガニックビレッジを目指しています。豊かな自然・豊かな資源を次世代に伝え、そこに暮らす人々が、健康で元気で生きる場所。ローカルだけど、ユニークで・フェアで・ファンがいる。「ないもの」ではなく「あるもの」を活かした未来をつくります！！

問い合わせ先
もがみオーガニックビレッジ協議会
info@nosya.net

東北農政局生産部生産技術環境課
022-221-6214

3 南陽市有機農業推進協議会（山形県南陽市）

協議会の構成員

南陽市農林課、(農)山形おきたま産直センター、山形おきたま農業協同組合南陽地区稲作部会、(株)おきたま興農舎、(有)ファーマーズ・クラブ赤とんぼ、山形県置賜総合支庁農業振興課、山形県置賜総合支庁農業技術普及課、山形おきたま農業協同組合南陽支店

生産概要（令和2年度末）

- 取組面積
有機農業取組面積：20.2ha
うち有機JAS取得面積：18.3ha
- 栽培品目：水稻、にんじん、ねぎ、さといも、しょうが
- 有機農産物の生産量：120トン
- 構成員の主な取引先：生協、米穀店、百貨店、飲食店、直売市等
- 有機農業者数：17名

成果（令和2年度）

- ・有機農業者数の増加：15名（令和元年度）→17名（令和2年度）
- ・有機農業取組面積の拡大：18.6ha（令和元年度）→20.2ha（令和2年度）

取組のポイント（令和2年度）

■除草や病虫害防除に関する技術講習会の開催

- ・有機農業の里としての基盤を確立し、新規参入者の増加を図るため、水稻の技術講習会を4回、野菜の技術講習会を1回開催。水田除草機による除草をはじめ様々な除草技術、病虫害防除対策等を学習したことにより、新規参入者だけでなく、従来からの有機農業実践者の栽培技術力の向上につなげた。

■有機米を使った加工品の開発

- ・地元酒店、酒蔵及び企画会社と協力して有機米を使った日本酒を試作開発。発表会の開催等を行い、商品化した日本酒を地元酒店で販売することとなった。

■学校給食での有機米利用拡大に向けた出前講座の開催

- ・市内全小中学校で有機米米飯給食を2週間実施し、農業者による小中学生等に向けた有機農業に関する出前講座を開催。小中学生等に向けた資料を作成・配布したことにより、有機農業への更なる理解の醸成につなげた。



▲水田除草機による除草効果の実証



▲有機米を使った日本酒の発表会



長年積み重ねたベテランの知識！
新たな技術に取り組む若手のエネルギー！
農業体験や田んぼの環境保全効果調査を通した消費者交流活動、学校給食への有機栽培米の供給などに積極的に取り組んでいます。

問い合わせ先
南陽市有機農業推進協議会
0238-40-8310

東北農政局生産部生産技術環境課
022-221-6214

4 千葉県有機農業推進協議会（千葉県全域）

協議会の構成員

農事組合法人さんぶ野菜ネットワーク、株式会社シェアガーデン、株式会社オーガニックパートナーズ、株式会社自然農法販売協同機構、オーガニック・エコ農と食のネットワーク、株式会社福島屋、イーサポートリンク株式会社、一般社団法人フードトラストプロジェクト木更津市、山武市

生産概要（令和2年度末）

■取組面積

有機農業取組面積：92.0ha

うち有機JAS取得面積：44.0ha

■有機農業者数：67名

■栽培品目：人参、米、里いも、小松菜等

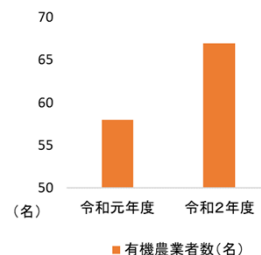
■有機農産物の出荷量：約950t

■構成員の主な取引先：30箇所
（生協、スーパー、農協直売所 等）

成果（令和2年度）

木更津市において有機米の取り組みが拡大され有機農業者が増加した。

- ・ 有機農業者数の増加：58名 → 67名
- ・ 有機農業の理解が深まり、有機JAS取得農業者が増加した。
- ・ 有機JAS取得農業者数の増加：34名 → 39名



取組のポイント（取組期間：令和2年度～）

■有機農業の新規参入者の増加に向けた取組

- ・ コロナ禍のためオンラインによる研修会に取り組んだ。内容としては新規就農者及び転換者等を対象に、**栽培技術指導及び農業経営、有機JAS認証に関する研修会**を実施した。
- ・ 昨年に引き続き、南房総市で有機農業への新規取組者を掘り起こすために研修会を開催。

■有機農産物の安定した供給体制の構築に向けた取組

- ・ オーガニックライフスタイルE X P Oへ出展し、有機農業者のアピールを行った。
有機農業者とバイヤーのマッチングを行った。
展示会やマッチングに参加することで、有機農業者同士の横のつながりもでき、情報交換できた。
- ・ 出荷効率化を目的に先進事例の視察を行う要諦だったが、コロナ禍のためオンラインでの講演会を行った。
- ・ 構成員会議を3回開催し、コロナ禍での取組方法を協議するとともに、進捗状況の共有や情報交換を行った。



一言アピール！

有機農業の取組をたくさん紹介しています。今年も有機栽培に取り組む仲間を増やしていきます。

問い合わせ先：
千葉県有機農業推進協議会
03-6821-4219

（関東農政局生産部生産技術環境課
048-740-0446）

5 さがみサステイナブルコミュニティ (神奈川県相模原市／愛川町)

協議会の構成員

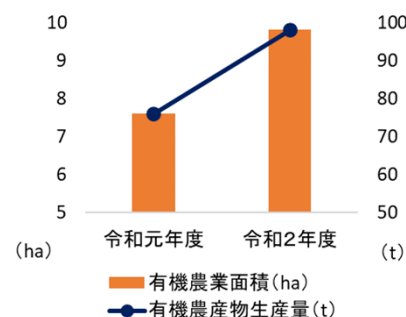
生産者12名、海老名畜産（有）、合同会社 旬彩坊、やさいバス（株）
相模原市、愛川町、県央愛川農業協同組合

生産概要（令和2年度末）

- 取組面積
有機農業の取組面積：9.8ha
うち有機JAS取得面積：5.3ha
- 有機農業者数：7名
- 栽培品目：人参、里芋、ズッキーニ、ルッコラ等
- 有機農産物の生産量：98.0t
- 構成員の主な取引先：
生協、スーパー、学校給食、食品宅配、産直EC等

成果（令和2年度）

- ・有機農業面積の拡大：7.6ha → 9.8ha
- ・有機JAS取得面積の拡大：4.3ha → 5.3ha
- ・有機農産物生産量の拡大：76.0t → 98.0t

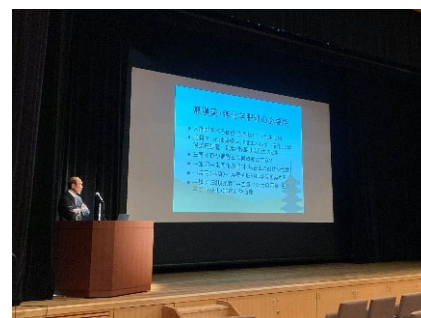


取組のポイント（令和2年度）

相模原市、愛川町ともに農業従事者の高齢化が進むなか、新たな担い手確保の手段として有機農業を広く提案していくため、有機への転換を促す土づくり技術実証、転換実証等をおこなった。

●栽培技術力・経営力向上のための取組

- ・伝統農法文化研究所 木嶋利男氏の講演による土地、気候、風土を生かした地域資源を活用する伝統農法を学び、作物の植物生理を根本から考える時間をもった。また、構成員の和泉氏は7haの土地を耕作する慣行農家で、その効率化と経営手法を小規模が多い有機農業に活かすべく現地視察した。
- ・三箇所の研修圃場を設置し、緑肥主体の土づくりとそれぞれの栽培方法を共有。またHappy village farm 石綿 薫氏を講師に迎え、研修圃場の土づくりの現状把握と、土づくり全体を学ぶ講習会を実施した。
- ・川田研究所 川田肇氏の指導で技術実証を実施。緑肥等を用いた土づくりをおこない土壌分析し、全炭素全窒素を量り、前後の変化を検証した。



さがみサステイナブルコミュニティは生産⇒輸送⇒販売を一貫して行い、生産力の向上と担い手確保、地域に根差す農業の存在をアピールしていきます。

問い合わせ先
さがみサステイナブルコミュニティ 事務局 原田
taizou880607@gmail.com

関東農政局生産部生産技術環境課
048-740-0446

6 小田原有機の里づくり協議会（神奈川県小田原市）

協議会の構成員

小田原市、小田原有機農法研究会、農事組合法人小田原産直組合、NPO法人あしがら農の会、一般社団法人MOA自然農法文化事業団、NPO法人小田原食とみどり、小田原家庭菜園研究会

生産概要（令和2年度末）

■取組面積

有機農業取組面積：112ha

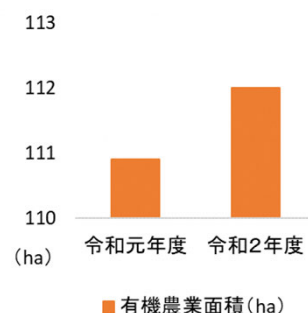
うち有機JAS取得面積：12ha

■栽培品目：キウイフルーツ、水稻、野菜等

■構成員の主な取引先：生協、スーパー、食品宅配等

成果（令和2年度）

- ・有機農業取組面積の増加：110.9ha → 112ha
- ・研修圃場、実証圃場を設置し、様々な作物を栽培することで、構成員の栽培技術力の向上を図った。



取組のポイント（取組期間：令和2年度～）

■有機農業者の育成及び技術の向上に向けた取組

- ・研修圃場を設置して、新規就農者たちが水稻、キウイフルーツなど様々な作物を栽培し、生育状況等の違いについて意見交換しながら有機資材、緑肥などを使った栽培方法を学ぶとともに、有機の育苗技術については、自然農法国際研究開発センターによる指導を受けながら、有機農業者を育成。
- ・実証圃場を活用した酒米を有機農法により栽培し、転換初期の課題の抽出、解決策を学び、慣行農法との生育状況や圃場管理の比較を行った。
- ・BLOF理論という3つの分野に分けて考察し、科学的・論理的に営農していく有機栽培技術の講習会を実施し、新規就農者や新規参入者の技術向上を図った。



一言アピール！

大都市圏から近く、自然環境にも恵まれた中で取り組んでいます！

問い合わせ先：
小田原市役所経済部農政課
0465-33-1494

関東農政局生産部生産技術環境課
048-740-0446

7 とやま有機・エコ農業パワーアップ協議会（富山県）

協議会の構成員

富山県農業協同組合中央会、全農とやま、富山県農林水産部、富山市、氷見市、滑川市、南砺市、舟橋村、入善町、朝日町、（公社）富山県農林水産公社、富山中央青果株式会社、丸果株式会社、MOA自然農法富山県連合会、越中土徳の会、氷見有機の里づくり協議会、（株）和田農産、富山県有機農業研究会、（有）土遊野、ログログファーム、どろんこ農園

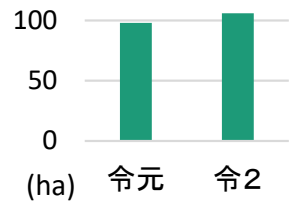
生産概要（令和2年度）

- 取組面積
有機農業取組面積：106ha
うち有機JAS取得面積：80ha
- 栽培品目：水稻、大豆、そば、ハトムギ
野菜（サトイモ、キャベツ他）等
- 有機農業者数：32名

成果（令和2年度）

- ・有機農業面積の拡大：98ha（令和元年）→106ha（令和2年）

有機農業面積の推移



取組のポイント（取組期間：令和2年）

県段階の「とやま有機・エコ農業パワーアップ協議会」と、地域段階の有機農業団体（5団体）が連携しながら、有機農産物の生産拡大に向けた取組を実施

■BLOF理論による有機栽培技術研修会を開催

- ・有機生産ほ場の生産力向上を目指し、BLOF理論に基づいた栽培研修会を開催した。土壌分析結果から施肥設計を行い、植物生理に基づいた農業理論への理解を深め、新規就農者だけでなく、従来からの有機農業実践者の生産性の向上につなげた。



栽培研修会（BLOF理論）

■消費者との交流促進の取組

- ・消費者に有機農業のことを知ってもらい、有機農産物等の価値を理解してもらうため、県民向けの食イベントにブースを設置し、生産者自らが有機農産物の生産活動をPR。



消費者交流（食のイベント）

■学校給食への有機農産物の導入するための取組

- ・学校給食への有機農産物の導入に向けて先進地導入事例を学ぶための研修会（講師：次代の農と食をつくる会、千葉県いすみ市）を実施。
- ・令和3年度に2市村で有機学校給食の取組みの拡大を予定。



学校給食研修会



協議会活動を通じて、
富山県の有機農業・エコ農業を推進
します。

問い合わせ先：

富山県農林水産部農業技術課エコ農業推進係
076-444-8292

北陸農政局生産部生産技術環境課
076-232-4893

8 若狭小浜オーガニック推進協議会（福井県小浜市）

協議会の構成員

(株)永耕農産 1 名、認定新規就農者 1 名、認定農業者 1 名、若狭有機の会 2 名、福井県民生活協同組合 1 名、JA福井県若狭基幹支店 1 名、小浜市地域おこし協力隊 1 名、(株)ふらむはあと 1 名、ラヴェリタ 1 名、小浜中央青果(株) 1 名、小浜市農業再生協議会 1 名、福井県 1 名、小浜市 3 名

生産概要（令和 2 年度末）

○園芸

- 取組圃場：2 圃場（4a）
- 栽培品目：きゅうり、ブロッコリー
- 取組内容：・土壌分析に基づく施肥設計
・太陽熱養生処理による土壌改良

○水稻

- 取組圃場：3 圃場（120a）
- 取組内容：・土壌分析に基づく施肥設計
・稲わら投入等による秋処理
・有機物の分解状況等の調査

成果（令和 2 年度⇒令和 5 年度見込）

- | | | | |
|-----------------------|------|---|-------|
| ・有機農業への新規就農者および転換者の増加 | 1 名 | ⇒ | 5 名 |
| ・有機農産物の出荷量（水稻） | 8.3t | ⇒ | 13.7t |

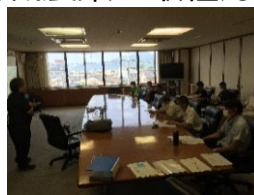
取組のポイント（令和 2 年度）

BLOF理論に基づいた土づくり講習会等

○講師を招いての実証や講習会

以前から嶺南地域は、土壌の質や日照量等が原因で農業に不利であるといわれてきた。この課題を解決するため、科学的根拠やデータに基づく有機農業に取り組んだ。

- ・新規就農者および転換者への技術・圃場実証… 4 回
- ・労働時間や生産コスト等の分析講習会 … 1 回



○協議会委員のみの研修会など

本協議会を構築し、有機農業の技術の向上と地域への普及、食のまちづくりの理念に基づく安全・安心な食の提供に取り組むため、下記の研修会を実施した。

- ・販売戦略等に係る検討会 … 1 回
- ・経営力向上に係る研修会 … 1 回
- ・その他（需要調査、商談など） … 6 回
- ・成果報告会



有機農業を普及させ、新たなブランド商品となるよう頑張ります。

問い合わせ先
若狭小浜オーガニック推進協議会
0770-64-6023

北陸農政局生産部生産技術環境課
076-232-4893

9 知多の恵み（愛知県知多郡美浜町、武豊町、南知多町）

協議会の構成員

有機農業者（13名）、美浜町役場、生協連合会アイチョイス

生産概要（令和2年度末）

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| ■取組面積
有機農業取組面積：7.2ha | ■栽培品目：人参、玉ねぎ、大根、里芋等 |
| ■有機農業者数：13名 | ■有機農産物の生産量：19トン |
| | ■構成員の主な取引先：生協連合会アイチョイス |

成果（令和2年度）

有機農業取組面積の拡大：6.3ha（令和元年度）→7.2ha（令和2年度）
 有機農産物の販売額：490万円（令和元年度）→770万円（令和2年度）

取組のポイント（令和2年度）

■BLOF理論に基づいた栽培研修会の開催

- ・地域課題である田畑転換の実現を目指し、BLOF理論に基づいた研修を通年（年3回）開催し、新規就農者が2名定着、増加。

土壌分析結果から施肥設計を行い、植物生理に基づいた農業理論への理解を深め、新規参入者だけでなく、従来からの有機農業実践者の生産性の向上につなげた。

■地域資材の有効活用

- ・知多半島の畜産業から出る牛糞を活用し、BLOF理論に基づいた自家製牛糞堆肥の生産に着手。田畑転換の必要資材として開発を進めた。

■緑肥資材の活用

- ・新たな取組としてソルゴーを始めとした緑肥を栽培し、圃場へそのまま粉砕・すき込みを行うことで、資材を自己完結できる手法の確立に取り組んだ。



BLOF理論に基づいた栽培研修会の様子



地域資材を活用したの堆肥生産の様子



知多半島を有機農業の一大生産地にするべく、日々農業に取り組んでいます！！
 共に取り組む仲間を募集していますので
 ご興味のある方はご連絡下さい。

問い合わせ先
 知多の恵みG事務局 杉浦
 0569-82-0401

東海農政局生産部生産技術環境課
 052-746-1313

10 神戸有機農業者CSA推進協議会（兵庫県神戸市）

協議会の構成員

株式会社ナチュラリズム、谷下農園、なちゅらすふぁーむ、fresco fresco、ながた農園、桶谷農園、あぐりしあ、新規農業者2名、兵庫県、神戸市

生産概要（2021年4月）

- 取組面積
 - 有機農業取組面積：5.10ha
 - うち有機JAS取得面積：3.19ha
- 有機農業者数：8名
- CSA会員数個人45名、企業2社
- CSA販売実績：3,120,000円
- 新しい品目：ビール麦 800kg

成果（2019年→2022年）

- ・ 有機農業の新規参入者の増加：1名（2019年）→4名（2022年）※見込み
- ・ 有機農業面積の拡大：4.8ha（2019年）→6.8ha（2022年）※見込み

取組のポイント（取組期間：2019年～）

■ 有機農業への参入者の増加に向けた取組

- ・ 神戸市内の耕作放棄地の解消と農業者減少を有機農業で解決するビジョンを掲げ、2019年、2020年の2年間技術向上セミナーの開催や大麦の栽培を新たに実験し有機農業の経営基盤の向上を図った。

■ 流通・販売の拡大に向けた取組

- ・ 実需者を交え、有機農業の販売方法（CSA）の拡大を目指すと共に企業の福利厚生に有機農業を活用できないかとの提案を展示会で行いニーズ調査をしました。
CSAの事例セミナーの開催や、新たに企業内でのCSAの導入を検討されている企業と導入実験を行い販売数の確保に至った。

一言アピール！

みどりの食料戦略に今後CSAを広めていくことが大切だと思います。

問い合わせ先
神戸有機農業者CSA推進協議会
090-8934-6611

近畿農政局生産部生産技術環境課
075-414-9722



11 神戸オーガニック・エコ農業推進協議会（兵庫県神戸市）

協議会の構成員

農業者19名、朝来市役所職員、生活協同組合コープ自然派兵庫、株式会社コープ有機、一般社団法人オーガニック認証センター

生産概要（2021年5月）

■取組面積

有機農業取組面積：24ha
うち有機JAS取得面積：9ha

■有機農業者数：7名

■栽培品目：米、大豆、人参、ズッキーニ、カボチャ、玉ねぎ、かぶ、ほうれん草、小松菜、ピーマン、水菜、トマト、春菊、レタス等

■構成員の主な取引先：3箇所
（生協、直売所、レストラン）

成果（2020年→2021年）

- ・有機農業者数の増加：7名（2020年）→7名（2021年）
- ・有機農業面積の拡大：41ha（2020年）→41ha（2021年）

取組のポイント（取組期間：2018年～）

■有機農業への参入者の増加に向けた取組

・新規参入者の課題であった有機農業の栽培技術について、BLOF理論の講習会を年に9回実施（※）することで農業者の技術向上と情報交流の場をつくっている。講習会において生産者からの様々な実践的課題に対して講師から丁寧な説明を受け新規参入者だけでなく、従来からの有機農業実践者の生産性の向上につなげた。

※ 小祝政明氏の提唱している、科学的・理論的に有機農業を進める再現可能な農法のBLOF理論に関する栽培技術講習会を年4回開催。

- ① 太陽熱養生処理を用いた団粒形成と各地の実践事例の紹介
- ② 作物生理に基づいたアミノ酸の供給
- ③ 微生物と水溶性炭水化物の供給
- ④ 土壌分析に基づいた施肥設計

一言アピール！

生産者、消費者がつながり、地域で連携し、生きものにやさしい農業実践と地域の環境保全に努めていきます。

問い合わせ先
神戸オーガニック・エコ農業推進協議会
（生活協同組合コープ自然派兵庫内）
事務局 078-998-1671

〔近畿農政局生産部生産技術環境課
075-414-9722〕

12 丹波市有機の里づくり推進協議会（兵庫県丹波市）

協議会の構成員

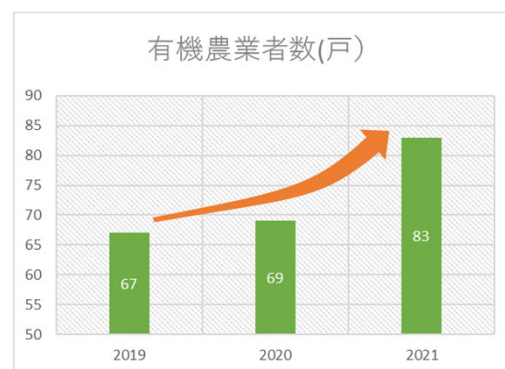
丹波市有機農業研究会、丹波ひかみ農業協同組合、丹波市
【アドバイザー】日本有機農業普及協会

生産概要（2021年3月）

- 取組面積
有機農業取組面積：156ha
うち有機JAS取得面積：60ha
- 有機農業者数：83名
- 栽培品目：水稻、黒豆、小豆等
- 有機農産物の生産量：530トン
- 構成員の主な取引先：大手米穀商社 米穀店
豆類加工業者 生協 飲食店 和菓子店 小売店等

成果（2020年→2021年）

- ・ 有機農業者数の増加：69戸 → 83戸
- ・ 有機農業面積の拡大：154ha → 156ha
- ・ 有機農産物の販売額：1億9100万円 → 2億0400万円



取組のポイント（取組期間：2020年～）

■ 様々なレベルの栽培勉強会 自主勉強会の実施

有機農産物の普及において、高品質でかつ高栄養価の有機野菜づくりにつとめて、流通においてお客さまから指名いただけるような栽培を目指しています。地域内の栽培技術レベルも向上してきた。より高いレベルの栽培勉強会を実施するとともに、市内にできた農の学校の卒業生や新規就農者向けの初・中級者向けの栽培勉強会も自主的に実施。地域内の栽培技術レベルの向上が図れるとともに、大型農家と新規就農希望者との交流から、農業者雇用につながる事例もみられ、地域の生産体制向上にも寄与している。

■ 流通・販売の拡大に向けた取組

高品質で栄養価の高い農作物を求める実需者のニーズを把握するため、3月におこなわれた**フーデックス**に出展し、**新規顧客獲得**につなげた。



一言アピール！

さらに地域内に有機農家が増えるよう
がんばって取り組んでいきます！！

問い合わせ先
丹波市有機の里づくり推進協議会
丹波市産業経済部農業振興課
0795-88-5028

近畿農政局生産部生産技術環境課
075-414-9722

13 那賀地方有機農業推進協議会（和歌山県紀の川市・岩出市）

協議会の構成員

（株）ビオランド紀ノ川、農業生産法人バイオ・ランド、紀州やさい、紀州農レンジャー、紀の川市環境保全型農業グループ、和歌山有機認証協議会、和歌山県有機農業生産者懇話会、紀ノ川農業協同組合、紀の里農業協同組合、紀の川市、岩出市、和歌山県那賀振興局農業水産振興課

生産概要（2021年3月）

■取組面積

有機農業取組面積：19.37ha

うち有機JAS取得面積：16.01ha

■有機農業者数：32名

■栽培品目：タマネギ、水稻、キウイ等

■有機農産物の生産量：557トン

■構成員の主な取引先：10箇所

成果（2015年→2020年）

- ・有機農業実践者の増加：
26名（2015年）→32名（2020年）
- ・有機農業面積の拡大：
13ha（2015年）→19.37ha（2020年）
- ・有機農産物(JAS) の生産量：
265t（2015年）→503t（2020年）

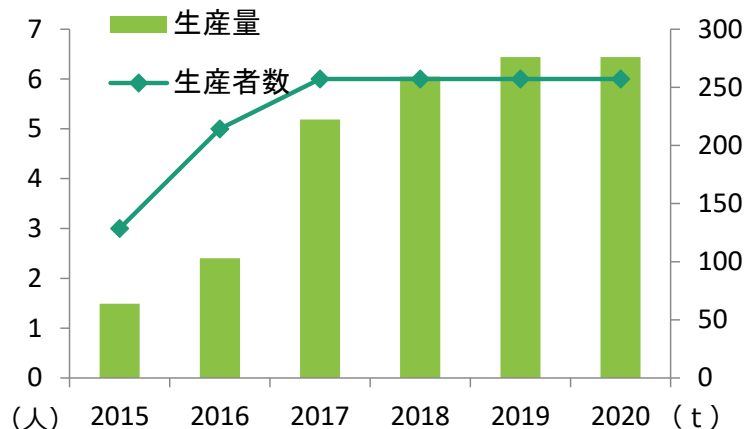


図 タマネギ[有機JAS]生産の推移

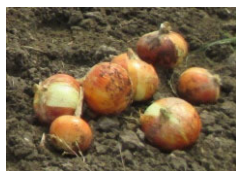
取組のポイント（取組期間：2020年～）

■有機農業への参入者の増加に向けた取組

- ・新規参入者への技術習得として、玉ねぎの栽培研修会を年に5回実施したところ、延べ10名の参加があり、新規参入者だけでなく、従来からの有機農業実践者の意欲の向上につなげることができた。

■有機農産物等の利用拡大の取組

- ・学校給食等において有機農産物の利用拡大に係る市、農協、紀の川市環境保全型農業グループとの連携活動に向けた協議、並びに需要側及び供給側の実態把握を行った。



一言アピール！

農業を通じてみんなを元気に、環境と人に優しい農業に取り組んでいます。この機会にぜひ一度手に取ってみて下さい！

問い合わせ先
那賀地方有機農業推進協議会
0736-61-0025（県那賀振興局・直通）

近畿農政局生産部生産技術環境課
075-414-9722

14 大阪オーガニック・エコ農業推進協議会（大阪府枚方市等）

協議会の構成員

大阪府枚方市、岸和田市、能勢町農業者（10名）、府内農産物流通事業者（2名）、枚方市農業振興課ほか

生産概要（令和2年度末）

- 取組み面積
有機農業取組面積：14.9ha
うち有機JAS取得面積：10.2ha
- 栽培品目：トマト、ニンジン、キャベツ、水稻等
- 有機農業者数：8名
- 構成品の主な取引先：3か所
(株)大阪愛農食品センター、(株)ビオ・マーケット、(株)坂ノ途中等

成果（令和2年度）

（令和元年度⇒令和5年度見込）

- ・ 有機農業者数の増加：8名（令和元年度）⇒11名（令和5年度見込）
- ・ 有機JAS認証取得者数の増加：4名（令和元年度）⇒7名（令和5年度見込）
- ・ 有機農業取組面積の拡大：14.9ha（令和元年度）⇒19.5ha（令和5年度見込）※30%増

取組のポイント（令和2年度）

令和2年度は、有機農業と有機農産物の普及促進の為、科学的な有機栽培技術として知られる「BLOF理論」の栽培技術研修会や、実証試験圃場での研修会等の各種取組みを計画していたが、2020年2月以降の新型コロナウイルス感染拡大と感染症拡大防止の為の緊急事態宣言の影響を受け、事業内容を大幅に縮小することを余儀なくされたが、そのような難しい状況下でも、オンラインの研修会開催など新しい取組みにも取り組んだ。令和2年度に実施した研修会は下記の通り。

■ 有機農業者、新規有機農業者の育成支援、有機農業技術の普及に関する事業

- ・ 有機農業技術研修（田中誠講師）2020年7月11日（土）枚方市民会館にて
- ・ 有機農業技術研修②（田中誠講師）2020年8月27日（木）オンライン開催
- ・ 有機農業技術研修③（田中誠講師）2020年9月24日（木）オンライン開催
- ・ 有機水稻の実地・座学研修（小祝政明講師）2020年11月16日（月）枚方市穂谷にて



大阪オーガニック・エコ農業推進協議会では、大阪府内の有機農業関係者と連携して、有機農業の普及拡大に繋がる取組みを、引き続き実施して参ります。ぜひご参加下さい！

問い合わせ先
大阪オーガニック・エコ農業推進協議会
（事務局）080-5342-9720

近畿農政局生産部生産技術環境課
075-414-9722

15 茨木オーガニック農業推進協議会（大阪府茨木市）

協議会の構成員

茨木市農業委員会、茨木市農とみどり推進課、生活協同組合コープ自然派おおさか、株式会社コープ有機、NPO自然派食育・きちんときほん、有機農業者（6名）他

生産概要（令和2年度末）

- 取組面積
有機農業取組面積：0.9ha
- 栽培品目：ごま、キャベツ、玉ねぎ等
- 有機農産物の生産量：0.7トン
- 有機農業者数：6名

成果（令和2年度）

（令和2年度）

- ・有機農業取組面積の拡大：0.44ha（令和元年度）→0.99ha（令和2年度）
- ・有機農産物の出荷量：0.7t（令和元年度）→1.2t（令和2年度）

取組のポイント（令和2年度）

■有機栽培等の学習会の開催

- ・BLOF理論に基づいた栽培や有機農業をめざす堆肥づくり、有機農業と消費者の提携のありかた等を学ぶため年4回の学習会を開催した。
- ・BLOF理論においては土壌分析から施肥設計を行うことが有機農業を実践するうえで需要ということを学び構成員の技術知識の向上につながった。

■学校給食への有機ごまの納入

- ・学校給食へ茨木産の有機のごまを納入すると同時に、イバゴマチラシ(茨木のごまの愛称)18700枚・ポスター40枚の作成。ゴマメニューを市内全小学校（32校）で取り組み、全小学生に「イバゴマ」チラシを配布。利用拡大に向けたポスターを茨木市内小学校全校に掲示。地元茨木市で有機農業が実施され、さらに面積を拡大することが安全で良質な給食につながることを啓発しました。



生産者と消費者がちからをあわせ有機農産物の拡がる取り組みを行っています。



問い合わせ先
茨木オーガニック農業推進協議会
（コープ自然派おおさか内）
TEL：072-635-0777

16 小松島市生物多様性農業推進協議会 (徳島県小松島市)

協議会の構成員

生産者、実需者、徳島県、小松島市ほか

生産概要 (2020年度)

■取組面積

有機農業取組面積：39.30ha
うち有機JAS取得面積：0.96ha

■有機農業者数：32名

■栽培品目：水稻、小松菜、タケノコ等
■構成員の主な取引先：生協、スーパー、産直市等

成果 (2020年度)

○新規参入農家の育成支援を実施

- ・有機栽培技術講習会を実施（3回）
- ・日本有機農業普及協会
栄養価コンテストに出品（3検体）



↑ 栄養価コンテスト
に出品を行った農産物

↓ 講習会の様子



取組のポイント (取組期間：2016年～)

- 有機農業への参入者の増加に向けた取組
 - ・とくしま有機農業サポートセンターと共同した、新規参入者向けの相談窓口の設置。
- 技術の確立・習得に向けた取組
 - ・BLOF理論（生態系調和型農業理論）の講習会を、H30は5回、R2は3回実施し、生産者の技術向上につなげることができた。
- 消費者の理解増進に向けた取組
 - ・オーガニックエコフェスタ開催による、技術者間交流と消費者へのPR活動を実施。

→栽培技術講習会の様子



←オーガニックエコフェスタの様子

一言アピール！

本協議会では、生物多様性の視点を生産環境に取り入れる農業を志向しています。

問い合わせ先
小松島市生物多様性農業推進協議会
0885-34-9292

中国四国農政局生産技術環境課
086-224-4511 (内線2772)



17 さぬきオーガニック（香川県全域）

協議会の構成員

綾川町経済課、（株）マルヨシセンター、（公財）オイスカ四国研修センター、
香川県有機農業者 8 名 他

生産概要（令和 2 年度末）

■取組面積

有機農業取組面積：6.98ha

うち有機JAS取得面積：0.98ha

■有機農業者数：8 名

■栽培品目：野菜全般、水稻

■有機農産物の生産量：9トン

■構成員の主な取引先：5箇所（マルヨシセンター、 コープ、春日水神市場 他）

成果（令和 2 年度）

（令和2年度）

・有機農業者数の増加：5 名（令和元年度）→8 名（令和 2 年度）

（令和元年度→令和6年度見込）

・有機JAS認証取得者数の増加：1名（令和元年度）→5名（令和6年度見込）

取組のポイント（令和 2 年度）

■研修会の開催

- ・有機JAS認定取得のためにJASについての研修会を行い、
今後取得に向けて栽培基準や記録作業について検討する。

■講習会等の開催

- ・栽培実証ほ等を設置し、緑肥を主体とした土づくりを行い、有機農業の専門家からアドバイスをもらって、土壌分析を基に施肥を行った。その後、生育状況を確認しながら、ほ場等で技術講習を実施した。（4回）
- ・土壌についての基礎知識を習得するための講習会を行い、
土壌分析値の見方、土づくりの手法について学んだ。

■地元小売店への販路開拓

- ・地元小売店のニーズを把握するため、アンケート調査を実施した。調査結果から消費者の有機野菜に対する需要を把握することにより作付計画を検討した。また、有機農業の専門家に作付計画を見てもらい、グループで出荷する計画を考察した。



土づくりを大切に行い、年間通して様々な野菜を有機栽培しています。こだわった野菜をご賞味下さい。

問い合わせ先

さぬきオーガニック事務局
ofan3071@yahoo.co.jp

中国四国農政局生産部生産技術環境課
086-224-4511（内線2772）

18 高知オーガニック（高知県高知市、本山町ほか）

協議会の構成員

NPO法人高知県有機農業研究会、株式会社土佐山田ショッピングセンター、株式会社四国シジシー、末広ショッピングセンター、NPO法人オーガニックスタイルこうち、高知かねた青果、株式会社山下農園、りぐるVege、や農園、キセツノオヤサイ葉屋、風と水の大地、ケンタロウファーム、素農人ほか

生産概要（令和2年度末）

- 取組面積
 有機農業取組面積：19.49ha
 うち有機JAS取得面積：2.32ha
- 栽培品目：ショウガ、トマト、ニンジン、水稻等
- 有機農産物の生産量：121.44トン
- 有機農業者数：14名
- 構成員の主な取引先：スーパー、産直市場、飲食店

成果（令和2年度）

- ・有機農業者数の増加：12名（2019年）→14名（2020年）
- ・有機農業面積の拡大：13.9ha（2019年）→19.49ha（2020年）
- ・有機農産物の販売額：3790万円（2019年）→4860万円（2020年）

取組のポイント（令和2年度）

■栽培技術力・経営力向上に向けた取組

- ・2箇所（稲作・野菜）の実習ほ場を活用した栽培技術の講習会を2回、栽培技術・経営力の向上の講習会4回、ほ場の土づくりのための技術実証を1回開催した。
- これにより新たに有機農業者（構成員）が2名増加した。

栽培技術講習会



■流通・販売の拡大に向けた取組

- ・実需者と生産者の意見交換会を毎月1回、栽培品目等の調整を行い、県内スーパーにおいて実需者等の意向把握・需要量の調査を行った。
- ・「ファベックス関西」に出展し、商談を行った。これにより関西の企業に高知オーガニックを知ってもらうことができた。



高知オーガニックです。私たちの作った“自然の味”をぜひご賞味ください！

問い合わせ先
高知オーガニック
090-8970-7796

〔中国四国農政局生産部生産技術環境課〕
086-224-4511

19 くまもと有機農業推進協議会（熊本県）

販路確保型

協議会の構成員

熊本県有機農業研究会 人吉市有機農業推進協議会 宇城有機農業プロデュース
山都町有機農業協議会「Organic山都」部会 百草園
人吉市 宇城市 山都町 熊本県 JA熊本中央会

生産概要（令和2年度末）

■取組面積

有機農業取組面積： 57.7ha

うち有機JAS取得面積： 45.1ha

■有機農業者数： 30名

■栽培品目： トマト、しょうが等

■構成員の主な取引先：

生協、年間契約事業者、消費者等

成果（令和2年度）

- ・有機JAS認証取得者数の増加： 17名（令和元年度）→ 20名（令和2年度）
- ・有機農業取組面積の拡大： 51.6ha（令和元年度）→ 57.7ha（令和2年度）

取組のポイント（令和2年度）

■分析に基づいた施肥・栽培管理の実践と講習会の開催

- ・土壌分析に基づいたミネラル施肥を行い、栽培管理を実践した。また、ぼかし肥料との栽培比較を行ったが、明確な差は得られなかった。さらに、BLOFセミナーを行い、生産性および技術力の向上へ農業理論の理解を深めた。

■有機農産物等の需要調査

- ・感染症拡大により計画変更したが、県外店舗や卸等を訪問し、消費者へのアピール方法を学ぶとともに、有機農産物に対する要望や動向等の調査、意見交換を行った。

■学校給食への導入に向けた学習会の開催

- ・先進的取組について韓国や今治市などの取組を学ぶとともに、学校給食での有機農産物の導入に向けて意見交換を行った。



新規就農者の技術向上、経営安定、販売体制の強化に力を入れています

問い合わせ先
くまもと有機農業推進協議会
事務局（熊本県有機農業研究会）
096-223-6771

〔九州農政局生産部生産技術環境課〕
096-300-6274

20 宮崎県有機農業連絡協議会（宮崎県）

協議会の構成員

有限会社松井農園、小浦製茶、株式会社かぐらの里、（一社）宮崎県農業法人経営者協会、宮崎県経済農業協同組合連合会、綾町、高鍋町、木城町、宮崎県

生産概要（令和2年度末）

■取組面積 85.9ha
 有機農業取組面積：41.6ha
 うち有機JAS取得面積：44.3ha

■有機農業者数：34名

■栽培品目：野菜、茶、ゆず、とうがらし等
 ■有機農産物の生産量：475トン



成果（令和元年度→令和2年度）

- ・有機農業取組面積の拡大：64.6ha（令和元年度）→85.9ha（令和2年度）
- ・県内全域を対象とした研修会の開催：6回（令和2年度）
- ・有機農業技術事例集の作成：300部（令和元年度）

取組のポイント（令和2年度）

■品目毎の技術研修会の開催

- ・県内有機農業者、有機農業に関心のある農家を対象に、品目・テーマ毎の技術研修会を開催。水稻、施設野菜、露地野菜、茶、果樹の5品目と、有機JAS制度に関する研修会を通年で開催（年6回）。科学的根拠に基づく有機農業技術の理解普及と実践事例を紹介し、有機農業への関心の向上に繋がった。



▲研修会の様子

■有機農業に関するアンケートの実施

- ・有機農業者、非有機農業者に対し、有機農業に対するアンケートを実施し、現在の課題、求められる支援策等について把握。消費者への理解促進・PR必要との声が多く、次年度以降の活動内容に反映させることとなった。



▲現地ほ場での検討会



県内の有機農業者のネットワークの拡大や、有機農業技術の普及・推進を、会員一丸となって進めていきます！

問い合わせ先
 宮崎県有機農業連絡協議会事務局
 0985-26-7134

〔九州農政局生産部生産技術環境課〕
 096-300-6274

21 かごしま有機農業推進協議会（鹿児島県鹿児島市・始良市・南さつま市）

協議会の構成員

鹿児島市、始良市、南さつま市、NPO法人鹿児島県有機農業協会、生活協同組合コープかごしま、株式会社エム・オー・エー商事九州販売、始良有機部会、有限会社かごしま有機生産組合

生産概要（2021年3月）

- 取組面積
有機農業取組面積：100 ha
うち有機JAS取得面積：98 ha
- 有機農業者：73名（当初48名）
- 栽培品目：水稻、玉ねぎ、人参等
- 有機農産物の生産量：920 t
- 構成員の主な取引先：262 箇所（生協、スーパー、小売店等）

成果（2014年→2020年）

- ・有機農業の新規参入者の増加：7名（2020年）
- ・有機農業面積の拡大：43 ha（2014年）→ 100 ha（2020年）
- ・有機農産物の生産量：485 t（2014年）→ 920 t（2020年）
- ・有機農産物の取引先：152 箇所（2014年）→ 262 箇所（2020年）

有機農業面積は、
130%増加。

生産量は、
90%増加。

取組のポイント（取組期間：2014年～）

■栽培技術・経営力向上等に向けた取組

今まで取り組んでいなかった新たな農産物（品目）の生産技術を習得する為、2箇所の実証圃を設置し、技術講習会を開催。また、有機農業フォーラムを2回開催し、生産力、経営力の向上に繋がった。

■安定供給体制構築のための取組

展示会へ出展することで新たな販売先を確保し、安心して生産できる体制を強化した。

また、展示会で使用するPR動画を作成し、展示会での訴求力を高めた。更に学校給食に携わる栄養教諭を集めて意見交換会を開催し、現状の把握を行った。



一言アピール！

圃場での現地検討会などを通して、安定的に生産できるように技術力の向上に努めています。

問い合わせ先：
かごしま有機農業推進協議会
事務局 099-282-6867

〔九州農政局生産部生産技術環境課〕
096-300-6274

1 自然と共生する里づくり連絡協議会 (千葉県いすみ市)

協議会の構成員

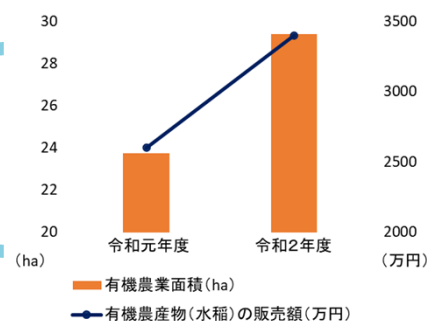
有機水稻(JAほか9農業団体)、有機野菜(直売所他5農業団体)、自然環境(環境NPO13団体)、地域経済(商工会ほか12団体)の4部会による協議会を構成。事務局はいすみ市農林課と水産商工課。

生産概要 (令和2年度末)

- 取組面積
有機農業取組面積：29.38ha
うち有機JAS取得面積（水稻）：9.9ha
- 栽培品目：水稻、にんじん、食用なばな、こまつな等
- 有機農産物の生産量：125トン
(うち水稻：120トン、うち野菜：5トン)
- 有機農業者数：39名
- 構成員の主な取引先：5箇所
(学校給食、直売所、生協、中食、総合スーパー等)

成果 (令和2年度)

- ・有機農業者数の増加：37名 → 39名
- ・有機農業面積の拡大：23.75ha → 29.38ha
- ・有機農産物（水稻）の販売額：2,600万円 → 3,400万円



取組のポイント (取組期間：令和元年度～令和2年度)

- 有機水稻の単収向上等に向けた取組 (R元年～)
 - ・平成29年度に、市内全13の市立小中学校で、全国初となる学校給食全量有機米使用を達成。
 - ・令和元年度には水稻の有機栽培を行うほ場でミッドマウント式水田駆動除草機による発芽雑草対策やミネラル、アミノ酸肥料を用いた高品質多収穫栽培を実証し、単収が20%向上。安定多収が見込めるため、栽培面積が令和2年度は9%拡大、令和3年度は24%拡大した。

- 有機野菜の供給体制構築に向けた取組 (H30年～)
 - ・学校給食に有機野菜を求める声が高まる中、令和2年度には有機農業者数の増加や面積の拡大により、にんじん、こまつな、じゃがいも、玉ねぎ、長ねぎ、大根、にらに続き、キャベツも加えたの8品目に供給が拡大した。新規・転換者のほ場で土づくり実証を実施し、緑肥の導入や「太陽熱養生処理技術」を実証。

また、各品目別の栽培に係る研修会等を実施するなど、地域における有機野菜の収量や品質、土づくりにかかる技術体系の確立に寄与。



(有機栽培米を食べる児童)

一言アピール！

房総半島の米どころ「いすみ市」で作られている有機米『いすみっこ』は、子どもたちの未来を支えるおいしいお米です。給食の残食も減りました！

問い合わせ先：
自然と共生する里づくり連絡協議会
0470-62-1515
関東農政局生産部生産技術環境課
048-740-0446



2 株式会社いかす (神奈川県平塚市)

企業の構成員

有機農業者：白土卓志、内田達也、岩崎恒一、伊藤豊

協力：生協、スーパー、堆肥製造会社、チップ製造会社、給食製造会社、農業系大学など

生産概要（令和2年度末）

■取組面積

有機農業取組面積：4.5ha

うち有機JAS取得面積：2.8ha

■有機農業者数：4名

■栽培品目：たまねぎ、にんじん、ばれいしょ等

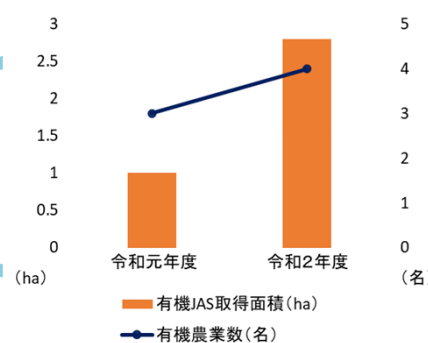
■構成員の主な取引先：約10箇所
(スーパー、レストラン 等)

成果（令和2年度）

・有機農業者数の増加：3名 → 4名

・有機JAS取得面積の拡大：1.0ha → 2.8ha

農業研修生から周辺の地域（神奈川県内）での新規就農者を4名輩出しています！



取組のポイント（令和2年度～）

■有機農業の普及・拡大に向けた取組

- 作業の有効性の把握を目的に、土壌分析、収量調査及び栄養分析等の比較調査を実施。土壌診断の結果に基づいた土壌改良（石灰の投入）および緑肥の利用に取り組み、初年度から一定以上の品質・収量を実現できた。継続して調査を実施し「技術の汎用化」を実現し、有機農業の普及・拡大を目指す。

■有機農業者の栽培技術・経営力向上等に向けた取組

- 有機農業関係者等を対象に、土壌診断や農業経営における考え方、食や種に関する勉強会など幅広い分野における講習会を年6回実施。有機農業者の栽培技術・経営力向上に寄与した。
- 開墾初年度から、土壌改良、緑肥の利用及び連作によるたまねぎの収量の年々アップや栄養価の高いキャベツの収穫など実績があがった。



耕作放棄地から作付3年目の畑のカブが、オーガニックエコフェスタ2021で最優秀賞を頂きました！！

問い合わせ先
株式会社いかす
080-3672-0802

関東農政局生産部生産技術環境課
048-740-0446



3 名古屋オーガニックアクション協議会（愛知県南知多町ほか）

協議会の構成員

有機農業者（7名）、半田市、株式会社yaotomi、（株）三河グリーンズ、自然派ママの会@あま市

生産概要（令和2年度末）

- | | |
|---|---|
| ■取組面積
有機農業取組面積：11.8ha
うち有機JAS取得面積：0.9ha | ■栽培品目：菜種、人参、大根、パプリカ等
■有機農産物の生産量：15トン
■構成員の主な取引先：5箇所
（イオンリテール(株)、(株)ヤマナカ、カネス工等） |
| ■有機農業者数：7名 | |

成果（令和2年度）

- ・有機農業者数の増加：6名（令和元年度）→7名（令和2年度）
- ・有機JAS取得面積の拡大：0ha（令和元年度）→0.9ha（令和2年度）

取組のポイント（令和2年度）

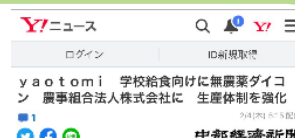
■学校給食への有機大根の納入

- ・愛知県半田市の学校給食関係者との打合せを行い、学校給食が求める規格や数量などの条件を満たす目途が立ったことから、有機大根について、愛知県半田市の学校給食に令和3年2月の一ヶ月間、納入することが決まった。

規格の部分で意識の乖離があり、予算を合わせるのに非常に苦労した。次年度以降は、規格の緩和を求めるなど意見調整していき、積極的に拡大していきたい。

■トヨタ自動車生産方式の考え方を導入

- ・トヨタ自動車生産方式の考え方であるジャストインタイム、2S、カンバン方式等の考え方をもとに作られた栽培管理システム「豊作計画」を導入。トヨタ自動車社員より年数回に分けて研修会を実施。「有機農家の常識」は「世間の常識」とは違うことを研修の都度痛感、この世間との意識のギャップを埋めるのに非常に苦労をした。この意識改革なくして面積と生産高の増加は見込めないため、次年度以降も取り組んでいく。



有機野菜、化粧品、薬油などを製造販売する yaotomi（ヤオトミ、実質本社半田市広小島町155の3・クラシティ1階、犬飼崇社長、電話0569・89・9715）は、学校給食向けに有機無農薬栽培ダイコンの初納入を決めた。今月から1カ月間、半田市の学校給食センター向けに供給する。今後は近隣自治体への納入拡大を目指す。グループで栽培を手掛ける農事組合法人の株式会社化も計画している。（半田）

学校給食への納入



研修会の様子



EU諸国やオセアニア地区の農産物情報を聞く度に、日本のオーガニックは相当に遅れているなと危機感を感じています。そんな日本の中で灯火となる活動を展開していきたいと考えています。

問い合わせ先
名古屋オーガニックアクション協議会 0569-89-9715

東海農政局生産部生産技術環境課
052-746-1313

4 生活協同組合コープ自然派奈良（奈良県橿原市）

協議会の構成員

生活協同組合コープ自然派奈良、農事組合法人農民連奈良産直センター、奈良有機農業推進協議会農業者（3名）

生産概要（令和2年度末）

- 取組面積
有機農業取組面積：270 a
- 栽培品目：菜の花、白菜、人参
- 有機農業者数：7名

成果（令和元年度→令和5年度見込）

（令和2年度）

- ・有機農業取組面積の拡大：270 a（令和2年度） → 450 a（令和5年度）
- ・有機農産物の出荷量：0（令和2年度） → 450 a（令和5年度）

取組のポイント（令和2年度）

■有機栽培技術栽培セミナー開催

- ・BLOF理論に基づいた栽培技術の基礎を実践例をまじえて学ぶ入門編の講座（年4回）を開催した。
- ①高栄養価・高品質・多収穫・安定栽培をめざすBLOF栽培の概論
- ②露地栽培・稲作でのBLOF理論を活用した栽培技術の実践について
- ③アミノ酸肥料と水溶性炭水化物の施肥技術と産地形成の実践例
- ④未来を創るBLOF理論 ～無農薬・高品質・多収穫栽培を成功させるために



■実証圃場研修会

- ・実証圃場においてBLOF理論栽培と通常の有機肥料で栽培した作物の比較実証を行った。生育、根張りに大きな違いがありBLOF栽培の優位性を確認することができた。また実証圃場の作物が栄養価コンテスト最優秀賞を得た。



■学校給食への有機作物の納入

- ・橿原市長や関係課と学校給食有機農産物導入への意見交換を行なった。これらの意見交換会を通して橿原市魅力創造部農政課の協議会参画に繋がった。



農家、農業団体、消費者、自治体と連携を深めながら地域での有機農業の拡がりを目指しています。

問い合わせ先
生活協同組合コープ自然派奈良
TEL：0742-93-4484

5 京都オーガニックアクション協議会 (京都府および周辺)

協議会の概要

京都市周辺の生産者、流通業者、飲食店、学術関係者ら
(369商店、坂ノ途中、アスカ有機農園、ワンドロップ、へんこ、
Cocodeかみむら農園、音吹畑、梅本自然農園ほか)

生産概要 (令和2年度末)

- 取組面積
有機農業取組面積：61 ha (うち有機JAS取得面積：9ha)
- 有機農業者数：52 名
- 栽培品目：万願寺とうがらし、米、ネギ、黒豆、筍など

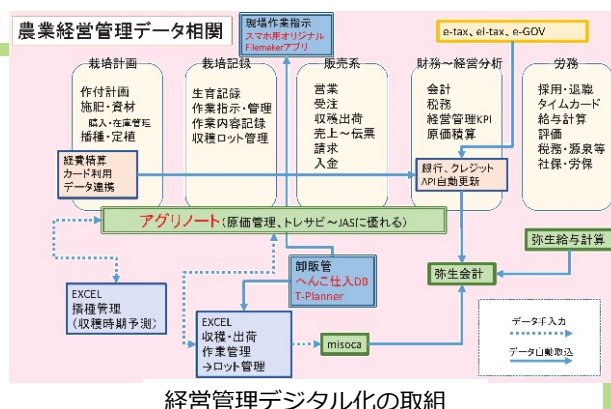
品名	単位	数量	単価	金額	5/28 (月)	6/28 (月)	7/28 (月)	8/28 (月)	9/28 (月)
有機JAS取得米	kg	1,000	130	130,000					
有機JAS取得米	kg	1,000	130	130,000					
有機JAS取得米	kg	1,000	130	130,000					
有機JAS取得米	kg	1,000	130	130,000					
有機JAS取得米	kg	1,000	130	130,000					
有機JAS取得米	kg	1,000	130	130,000					
有機JAS取得米	kg	1,000	130	130,000					
有機JAS取得米	kg	1,000	130	130,000					
有機JAS取得米	kg	1,000	130	130,000					
有機JAS取得米	kg	1,000	130	130,000					

成果 (令和2年度末)

- ・本事業取組生産者数： H30年度末 **34** 名 → R2年度末 **52** 名 (53%増)
- ・有機農業面積の拡大： H30年度末 **55.7** ha → R2年度末 **61** ha (9%増)
- ・有機農産物の販売額： H30年度末 **4479** 万円 → R2年度末 **5079** 万円 (13%増)

取組のポイント (令和2年度)

- ・共同物流便運行と農産物生産販売計画・取引データの共有
- ・生産者／実需者の意見交換会および相互訪問
- ・地域の生産者・実需者を巻き込んだ作付検討会の開催
- ・生産者対象の経営技術に関わるオンライン勉強会実施
- ・経営力向上／出荷効率化に関わるソフトウェア導入実証
- ・少量多品目農業者の生産コスト～品目毎の適正価格算出支援



京都周辺の比較的小規模の生産者・実需者らが集まり、
生産・販売・物流に関する情報を共有。
周年供給体制構築に向けた「作付検討会」を **2** 回開催。

意見交換会、意向調査などを実施 (**2**回)

生産技術や経営スキル向上を図る勉強会等を **10** 回開催



地域内流通を支えるコミュニティづくり

持続可能な社会を目指す生産者、流通業者らが集まって
知恵を出し合いながら、新しい流通の仕組みづくりに
取り組んでいます！ 全国各地の皆さんも連携しませんか？

問い合わせ先：
近畿農政局生産部生産技術環境課
075-414-9722



6 有限会社かごしま有機生産組合（鹿児島県鹿児島市）

供給拡大型

法人の概要

- 法人設立：1991年7月（事業開始 1984年4月） ■資本金：3千万円
- 年間事業高：8億2千万円 ■従業員数：74名

生産概要（令和2年度末）

- 取組面積
有機農業取組面積：180 ha
うち有機JAS取得面積：163 ha
- 構成員数：160名
- 栽培品目：野菜 約100品目、果樹 約20品目、米、茶 等

成果（令和2年度）

直営農場にて、ごぼう用溝堀機の導入実証及び自社加工施設にて、ごぼうチップスの商品開発に取り組んだことを契機に、当該農場にて、これまで栽培していなかった、有機ごぼう（60a）の栽培を行うことが出来た。

取組のポイント（令和2年度）

■新たな栽培技術の実証【ごぼう用溝堀機の導入実証】

ごぼう用溝堀機の導入による機械化体系確立により、実証データの収集をし、生産量拡大をはかり栽培技術力・経営力向上に繋げる。
導入による期待できる効果として、「股割れ根の発生の軽減」、「短根の発生の軽減」がある。

溝堀機使用区と非使用区の比較実験の結果、使用区は長型の重量のあるごぼうを安定的に生産できることを確認できた。



左：（非使用区）平均根長＝44cm
右：（使用区）平均根長＝103cm

■加工品の試作開発【ごぼうチップスの商品開発】

当初、揚げ製法で3種のフレーバー（プレーン・塩味・カレー味）の製造を進めたが、購入したサンプル品に比べ油分を落としきれておらず、改良をすることにした。

揚げ温度や油の種類の変更、焼き製法を行う等試行錯誤を経たが、市販に耐える商品開発に至らず、試作品段階に留まり、令和2年度中での商品化は見送ることとした。



ごぼう用溝堀機（トレンチャー）



一言アピール！

有機ごぼうの増産に向けてより一層頑張ります。

問い合わせ先：
有限会社かごしま有機生産組合
事務局 099-282-6867

九州農政局生産部生産技術環境課
096-300-6274